

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101169		
法人名	日本海観光株式会社		
事業所名	グループホーム 敬愛苑 Aユニット		
所在地	島根県松江市寺町198-57		
自己評価作成日	平成23年11月21日	評価結果市町村受理日	平成24年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3270101169&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成23年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝一番の「おはようございます、今日もよろしくお願います。」という利用者様、職員同士の挨拶と笑顔で一日が始まります。そこから人と人を和ませる温かい気持ちになれる空間づくりをしようと思っています。私たちも行く道です。当たり前のことですが安心して食べて、笑って、寝てもらいたい、そのためにも基本理念である「人と人、心の和を大切に」をいつも心において日々努力していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員が利用者全員の事を把握して支援する体制がとられていて、各ユニットの職員は両ユニットの利用者に挨拶してから自分の持ち場に就くようにしている。利用者の意向を汲み取った支援に努め、洋裁が好きな利用者の為に職員は協力し合って「足踏みミシン」を探してきた。利用者は昔を思い出しながらミシンを使っている。ホームはビルの四階にあり同フロアには、雨天でも散歩が出来るように整備しており、お地藏様も祭られていて利用者は自由にお参りしたりフロアに出かけている。「水郷祭」の花火を利用者はラウンジから楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はよく見えるところに掲示しており、日々のケアの中心となるよう意識して実践できるようにしている。また、エレベーター内にも掲示しており、地域の方にも理解してもらっている。	ユニット会議で理念について全職員で話し合い、理念に基づくケアに取り組んでいる。職員は、利用者が笑顔を絶やさず安心した生活ができるような支援を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、ボランティアで訪問してもらったりしている。また、散歩や商店へ利用者と共に買い物に出かけるなどして交流している。	地域の地蔵祭りに参加したり、事業所内のレクリエーションルームを地域に開放し、ハンドベルコンサートやフラダンス等が行われている。、中学生の福祉体験の受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	災害時には一時避難所に施設を有効利用してもらおうようになっている。また、会議室やレクルームは町内会の方々に会議等に開放している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市、包括支援センターの職員、近隣の町内会、民生委員、福祉推進委員、公民館の方々の参加を得て、利用者への理解やサービス向上など図っている。	活動報告や事故報告等を行い、参加者からは活発な意見や要望等がありサービスの向上に活かされている。職員は会議の内容について周知している。	会議で出された意見や要望を検討し報告することで、課題を継続できるような会議になることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者との連絡を密に取り、事業所としての考え方や疑問に思うことなどを伝え、連携を図っている。	利用者に介護保険について担当者から説明してもらったり、福祉用具について相談をするなど連携が図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアのあり方について、常に話し合いながら検討していて、見守りを徹底しながら自由な生活が支援できるような体制を取っている。	ミーティングを利用して身体拘束について研修を行ったり、職員から拘束についての質問等がある場合は話し合いの場を持ち共通認識を持つようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修、ミーティングなどで防止に努めており、お互いに注意し合っている。暴言や無視などもその都度対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用者がおられ、担当機関等の連携の中で学んだり、研修をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に家族、利用者と契約書類の説明を行ない、理解、納得をして頂いた上で手続きをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来苑時には利用者の状況を説明したり、家族からの要望、意見を聞いてミーティング等で話し合い、反映させている。意見箱も設置している。	家族の面会時に意見や要望を聞くようになっている。意見箱をエレベーター横に設置しているが、意見や要望等集まりにくい。	利用者、家族の意見や要望等を汲み取る工夫を望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談等で全職員が意見を言えるようにして、日頃から話しやすい関係作りに努力している。反面、介護の場での倫理や規定を含めて検討しながら反映させている。	その都度気づいた事等を話し合える関係作りを心掛けている。職員の提案を活かし浴室の脱衣場にヒーターを設置したり、風邪予防の為にリビングに加湿器を設置した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場に入り、職員個々の努力や実績を把握したり、業務の悩み、人間関係なども把握して、ストレス軽減に努めている。休憩時間はきちんと1時間あり、更衣室、休憩室も別に設置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修にも参加案内をしてすすめていて、認知症の理解を含め、技術の向上やチームワークケアへの向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの見学や研修を受け入れていて、業務に反映させるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始するまでに、本人に直接面談をし、アセスメントしている。本人が何に困っているのか、何をしたいのかを聞き、より良い関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が何に困っているのか、どんな苦労、要望があるのか、耳を傾けながら、家族共に相談をし、協力し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の相談を受けたときに、今の事情を聞き、どんなサービスが必要なのか見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方、職員共に、歌をうたったり、身体を動かしたり、料理作り等、共に作業をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで、行事や日々の生活の様子、健康状態等を紹介している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方との面会、ドライブ、食事等、居室で過ごされたりされている。	毎日曜日に馴染みの福祉タクシーを利用して教会に出かけたり、家族の協力で外泊、散髪や馴染みの喫茶店に出かけている。誕生日には普通だった店に外食に出かける等の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方同士、楽しく過ごせるよう、毎月の行事に参加したり、ビデオ、歌等、声を掛け合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたら見舞いに行き、様子を見る。死去されたら、仏壇(家族宅)に拝みに行く。他施設に移動されても面会に行く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声かけを行い、意思疎通が困難な場合は表情、態度を見逃すことのないよう努力している。	午前中の飲茶の時や夕食後の会話の中から思いや意向を把握している。業務日誌で職員は情報を共有している。洋裁が好きな利用者の為に足踏みミシンを用意した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の報告書により、情報収集する。また、以前通所されていたときの様子を聞き、援助の参考にする。早く環境に慣れて頂くよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が望むこと、出来ることを可能な限り優先し、時には手助けを行い、心理面では何事にも耳、心を傾け受容し、安定して頂けるよう努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思い、意見を聞きながら、スタッフ同士カンファレンスを行い、ケアプラン作成、見直しを行う。	面会時、受診支援時や電話で家族の意見を聞いてケアプランに取り入れている。全職員はユニット会議でケアプランに沿って話し合いプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況、日々の様子、会話等を記録し、全職員がいつでも確認出来るよう、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月苑便りにて、1ヶ月の状況報告を行い、面会時にはその都度現状報告を行い、要望等を聞き、柔軟に対応し、サービスの提供方法に取り組む努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に包括センターの方、民生委員、町内の方等が参加して下さり、情報交換をし、ご支援、ご協力をして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望されるかかりつけ医や病院の受診、往診をして頂いている。	受診は毎月家族の協力で行っているが、状況に合わせて職員も支援している。緊急時は主治医の指示の下で受診、救急車、往診等の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で変化があれば、苑内の看護師に連絡し、指示を受けてから、受診、看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院時には、病院に支援記録等を提供し、情報交換を行い、ご家族様とも連絡を取り、退院後の対応等を相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様、ご家族様の希望があり、主治医が終末期等の対応が可能であれば、利用者様、ご家族様、医師と十分に相談しながら苑が対応できる支援を行うが、積極的には行っていない。	職員は当初不安であったが、主治医から常に指示やアドバイスを受け、職員間で毎日話し合い状況を共有していた。家族は毎晩、水分補給等の支援を行った。家族と医師の協力の下で事業所が対応できる支援ができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに従い、行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練、避難訓練等、定期的に行い、全職員が身に付けている。	民間の警備会社に毎月、消火器等の点検や指導を依頼している。職員が利用者になって隣接しているデイサービスと合同で避難訓練を行った。	今後もいろいろな災害を想定し訓練をされることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の気持ちや思いを尊重した声がけを意識している。	入室時には必ず声を掛けたり、排泄時にはトイレのドアを閉めて介助する等気をつけている。利用者の人格を尊重し馴れ馴れしい言葉遣いをしないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の何気ない会話に耳を傾け、出来る限り自分で決めるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく1日を過ごして頂けるよう、援助するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣は、なるべく本人様に決めて頂いている。整容も乱れがないよう気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理、後片付けも個人に合ったことを手伝って頂き、毎日の日課となっていることもある。	食事の準備や食器洗い等利用者のできる事を一緒にしている。カレーライスが食べられない利用者には親子丼にする等、利用者が楽しく食事が出来るように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、1日の摂取量を把握し、気を配っている。 ムセのある方は、トロミ剤等を使い、摂取しやすい形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔ケアをしている。出来ない所は介助している。 週に2回入れ歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの声掛けが必要な利用者には排泄チェック表を使用し、排泄パターンに応じてトイレ誘導し、トイレでの排泄を促し、習慣づくように支援を行っている。	チェック表をもとにトイレに誘導している。状況に合わせ職員間で分かるように記録をし、時間をずらして再度支援する工夫をしている。夜間は定時誘導とセンサーを利用し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、便意のない方、便秘傾向のある方には、水分補給、牛乳を摂って頂いたり、散歩等の運動を促したりして、自然排便を心掛けている。数日間排便のない方は、医師の指示による薬での調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1度は入浴して頂くようにしている。毎日入浴したいと希望される方には、意に添うように心掛けている。入浴拒否のある方には、気分を変えるような言葉掛けを考え、入浴して頂く。	利用者に合わせた声掛けで希望に沿った入浴支援を行い、入浴剤や、柚子、菖蒲湯等季節を感じられる工夫もしている。利用者からは「良かったわ」という声が聞かれる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活のペースや体調に合わせ、日中の生活リズムを整え、安眠できるよう配慮している。眠剤を服用されている方は、睡眠状態、日中の様子を把握するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬剤早見表を作成し、全職員が薬の内容を把握し、服薬時の誤薬のないように職員2人で確認後服用して頂く。 状態変化時は、詳細な記録をとり、看護職員が中心となり、主治医と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮して頂けるよう、出来そうな仕事をしてもらっている。(洗濯物干し・たたみ、清掃、お膳・テーブル拭き、調理等) 季節感が味わえるような行事を考え、楽しんで頂くようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣に合わせて、教会、神社、買い物、公園等、歩行困難なケースでも車や車イスを利用して戸外へ出かけて頂けるよう支援している。	日常的に支援することは困難だが、その時々話題でサーカス等利用者が関心のある場所や花見に出かけるなど支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族または本人より預かったお金は、事務所で管理している。金銭を理解し、希望される方には、買い物、飲食等に、自分でお金を払って頂けるように、お金を手渡すなどの工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話には、会話が他の利用者に聞こえないよう、また、話しやすいよう工夫している。希望があれば、職員が支援し、掛けてもらう。手紙が届いたときは、声がけを行ったり、かわりに読むなど支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は、落ち着いた空間になるよう工夫し、飾りつけなどで、生活感、季節感が感じられるようにしている。穏やかに生活を送って頂けるよう、家具の配置等工夫している。	利用者の塗り絵や折り紙作品、季節が感じられる飾り付けをしている。風邪予防の為に適度の湿度が保たれており、利用者が安心して過ごせる環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、ユニット内にソファを置き、一人でのんびり過ごしたり、気の合う利用者同士が会話のできる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具、写真、思い出の品々を持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地の良い場所になるよう配慮している。	位牌や馴染みの家具、テレビ、趣味の盆栽や雑誌等を持参し、その人に合った居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって、「不安・混乱」または「出来ること」を状況に合わせて、環境整備に努めている。利用者の状態が変わったときは、その都度話し合い、支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101169		
法人名	日本海観光株式会社		
事業所名	グループホーム 敬愛苑 Bユニット		
所在地	島根県松江市寺町198-57		
自己評価作成日	平成23年11月21日	評価結果市町村受理日	平成24年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.katgokoukyou.jp/katgostp/informationpublic.do?JGD=3270101169&SCD=320&PCD=32
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成23年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝一番の「おはようございます。今日もよろしくお願います。」という利用者様、職員同士の挨拶と笑顔で一日が始まります。そこから人と人を和ませる温かい気持ちになれる空間づくりをしようと思っています。私たちも行く道です。当たり前のことですが安心して食べて、笑って、寝てもらいたい、そのためにも基本理念である「人と人、心の和を大切に」をいつも心において日々努力していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はよく見えるところに掲示しており、日々のケアの中心となるよう意識して実践できるようにしている。また、エレベーター内にも掲示しており、地域の方にも理解してもらっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、ボランティアで訪問してもらったりしている。また、散歩や商店へ利用者と共買い物に出かけるなどして交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	災害時には一時避難所に施設を有効利用してもらおうようになっている。また、会議室やレクルームは町内会の方々に会議等に開放している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市、包括支援センターの職員、近隣の町内会、民生委員、福祉推進委員、公民館の方々の参加を得て、利用者への理解やサービス向上など図っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者との連絡を密に取り、事業所としての考え方や疑問に思うことなどを伝え、連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアのあり方について、常に話し合いながら検討していて、見守りを徹底しながら自由な生活が支援できるような体制を取っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修、ミーティングなどで防止に努めており、お互いに注意し合っている。暴言や無視などもその都度対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用者がおられ、担当機関等の連携の中で学んだり、研修をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に家族、利用者と契約書類の説明を行ない、理解、納得をして頂いた上で手続きをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来苑時には利用者の状況を説明したり、家族からの要望、意見を聞いてミーティング等で話し合い、反映させている。意見箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談等で全職員が意見を言えるようにして、日頃から話しやすい関係作りに努力している。反面、介護の場での倫理や規定を含めて検討しながら反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場に入り、職員個々の努力や実績を把握したり、業務の悩み、人間関係なども把握して、ストレス軽減に努めている。休憩時間はきちんと1時間あり、更衣室、休憩室も別に設置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修にも参加案内をしてすすめていて、認知症の理解を含め、技術の向上やチームワークケアへの向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの見学や研修を受け入れていて、業務に反映させるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始までには、必ず直接本人に会い面談をし、アセスメントしている。本人に向き合い、思いや要望にこたえられるよう、また、職員が本人を受け入れやすいような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や経緯については傾聴し、聞くことから始まる。その上で、これからサービスの利用に向けて家族と共に相談しながら、本人を中心としたケアへ結び付けられるよう、協力体制をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の実情により、その時点で必要なサービスは何かを見極め、場合によっては他事業所を紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	和やかな生活が出来るように、場面作りや声がけをする。本人が得意とすることや、やりたいことを共にする中で、信頼や強調などが生じ、よい関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時や毎日のお便りで日々の様子を報告し、情報の共有に努めている。電話等での連絡や、面会など継続的な交流が図れるように働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週日曜日に教会へ行かれたり、家へ帰られたりする利用者がおり、生活習慣を尊重している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり、相談にのったり、利用者同士の会話の和に入ることで関係が上手くいくように図っている。利用者同士のトラブルが生じないように事前に察知し予測行動をしている。リビングでの座席には気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されれば見舞いに行き、ご家族様の報告を聞いたり、面会に行く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人個人の希望に添うよう努めている。外出、散歩など。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を会話の中から聞き取り、その中で共鳴したりねぎらうよう心がける。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの過ごし方があり、その中から心身の状態、持っている力の有無等の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員で情報を共有し、意見交換に基づいて意見やアイデアを出し、現状に見合った計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の様子を事細かく記録、観察し、特に健康面については介護に反映、多大である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の方の高齢、ADL低下に伴い、適切な対応が出来るよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、市職員、中央包括支援センター職員、民生委員、町内会長、利用者の家族様等に参加して頂き、周辺情報や支援に関する情報交換やご意見を頂きながら協力関係を築くようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の今までの掛かりつけの病院、又は症状によって病院を増やし、受診及び往診を受けている。普段の様子や変化を伝えるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常に利用者様を観察し、状態変化を看護職員に報告し、コミュニケーションを取りながら健康管理に気をつけ、早期発見に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人に関する情報を医療機関に提供している。また、回復状況等情報交換し、時には病院へ出向き確認し、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	積極的にはしていないが、主治医が終末期等の対応をされる意向があれば、常に利用者様家族様とコミュニケーションを取り、医師と十分に相談しながら、苑が対応できる支援を行っていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに従い行うようにする。応急手当への講習会への参加、苑内での講習会を実施できるように努める。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者に合わせた言葉かけや対応を心掛けているが、配慮不足や相性が合わず、気分を損ねたり怒られたりすることもある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余裕のあるときにはそうしたいが、今は十分に出来ていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	私個人としては、決まった仕事をするこゝろさゝえ十分ではなく、そこまでの支援は出来ていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣や入浴の際には、2、3の中から(時間のあるときには)選んで頂いたり、珍しい柄や色のものを身に付けておられたら、声がけをして楽しんで頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々〇氏に皮むき等簡単なことを手伝って頂く。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	盛り付け時に配慮したり、水分量の過不足が極端にならないよう、声がけしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の方、声がけの必要な方、それぞれに合わせて口腔ケアを促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、定時にトイレへ誘導し、排泄を促すよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便表にてチェックを行い、便秘がちの方には牛乳を摂って頂いたり、また、散歩や運動、腹部マッサージを行ったりしている。数日間排便が見られない場合は、医師と相談し、服薬等をいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2～3日に一度の入浴に心がけている。入浴に気が向かない方には言葉かけ、タイミングに留意している。また、浴室や脱衣場の室温や湯の温度など、各々の希望に添うよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調やその方の生活のリズムによって、午睡したり、休息したりして頂いている。また、日中活動を促し、夜は安眠するといった生活リズムを整えるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬剤早見シートを作成し、全職員が薬の内容を把握し、服薬時は誤薬のないように職員2人が確認し、服薬して頂いている。状態変化時は詳細な記録をとり、看護職員が中心となり、主治医と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、出来そうな仕事(洗濯干し・たたみ、掃除、お膳・テーブル拭き、調理の手伝い他)をお願いし、都度、感謝の言葉を伝えている。毎月何らかの行事を行い、楽しんで頂くよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、教会、神社、買い物等へ出かける機会を多く作るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望するもの、必要なものを購入する場合、事務所にて預かり金より購入、また、家族様に連絡する場合もあり。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと言われるときは、スタッフがかけ、利用者様が直接お話しをされるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、浴室、トイレ等はきちんと掃除し、清潔に気持ち良く使えるよう心がけている。廊下、リビングは、季節感のある壁面等で飾り、また、季節のお花等を生け、常に和やかに生活出来るよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの利用者様の席の工夫、お互いにお話しが出来たり、また、ひとりになられる方にはスタッフが声をかけ、話題を作り、和やかに過ごせるよう、常に心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の物の置き場所等、利用者様の思いに添って落ち着いて過ごせるように、どんな小さなことでも手をかけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一をいつも心がけている。一人ひとりが出来ることを支援し、全員が何かに参加出来るように心がけている。		